291	18	題号不明	加倉井秋を	291	言語	渋を搗く音を労るやうに搗く	2008	『俳句歳時記　第四版』	537	￥46	￥1	￥1	秋
292	18	題号不明	加倉井秋を	292	言語	大根蒔く短き影をそばに置き	2019	『俳句歳時記　第五版』	575	￥46	￥1	￥1	秋
293	18	題号不明	加倉井秋を	293	言語	鮭番屋柱時計の鳴つてゐる	2022	『新版　角川俳句大歳時記　秋』	313	￥46	￥1	￥1	秋
294	18	題号不明	加倉井秋を	294	言語	踊りゐるうしろ姿のみな暗く	2006	『角川俳句大歳時記　秋』	285	￥46	￥1	￥1	秋
295	18	題号不明	加倉井秋を	295	言語	鳴らざれば気づかざりしに桐は実に	2008	『俳句歳時記　第四版』	619	￥46	￥1	￥1	秋
296	18	題号不明	加倉井秋を	296	言語	除夜守る火紺地金泥なせりけり	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	46	￥43	￥1	￥1	冬
297	18	題号不明	加倉井秋を	297	言語	桐の木にありし冬日の失せにけり	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	72	￥43	￥1	￥1	冬
298	18	題号不明	加倉井秋を	298	言語	雪となる妻が巻く糸もつてやる	2017	『昭和俳句作品年表（戦後篇）』	44	￥43	￥1	￥1	冬
299	18	題号不明	加倉井秋を	299	言語	枯野馬車日当りてゆくたのしさよ	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	134	￥43	￥1	￥1	冬
300	18	題号不明	加倉井秋を	300	言語	放牛に涸れ沼［ぬ］を渡る家路あり	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	138	￥43	￥1	￥1	冬
301	18	題号不明	加倉井秋を	301	言語	なまよみの甲斐の霊［くす］しき冬泉	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	138	￥43	￥1	￥1	冬
302	18	題号不明	加倉井秋を	302	言語	燈台を思ひ出しをり蒲団干す	2001	『戦後秀句Ⅱ＜新版＞日本秀句10』	6	￥43	￥1	￥1	冬
303	18	題号不明	加倉井秋を	303	言語	運ばれてすぐに沢庵石と呼ぶ	2008	『俳句歳時記　第四版』	737	￥43	￥1	￥1	冬
304	18	題号不明	加倉井秋を	304	言語	スチームのパイプのかすかなる曲り	2008	『俳句歳時記　第四版』	744	￥43	￥1	￥1	冬
305	18	題号不明	加倉井秋を	305	言語	煉炭の束ね縄はづせばまろし	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	312	￥43	￥1	￥1	冬
306	18	題号不明	加倉井秋を	306	言語	村の誰にも聞こえて初発猟銃音	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	351	￥43	￥1	￥1	冬
307	18	題号不明	加倉井秋を	307	言語	湯ざめして急に何かを思ひつく	2008	『俳句歳時記　第四版』	770	￥43	￥1	￥1	冬
308	18	題号不明	加倉井秋を	308	言語	懐手して出て曲らねばならぬ	2001	『戦後秀句Ⅱ＜新版＞日本秀句10』	6	￥43	￥1	￥1	冬
309	18	題号不明	加倉井秋を	309	言語	あをあをととをはりのとばり里神楽	2008	『俳句歳時記　第四版』	786	￥43	￥1	￥1	冬
310	18	題号不明	加倉井秋を	310	言語	醤油とつくとつく夜神楽きりもなし	2022	『新版　角川俳句大歳時記　冬』	472	￥43	￥1	￥1	冬
311	18	題号不明	加倉井秋を	311	言語	法楽の白さ尽して寒念仏	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	447	￥43	￥1	￥1	冬
312	18	題号不明	加倉井秋を	312	言語	桶に蒟蒻空に昼月一茶の忌	2008	『俳句歳時記　第四版』	795	￥43	￥1	￥1	冬
313	18	題号不明	加倉井秋を	313	言語	早梅の紅くて父と母の家	2008	『俳句歳時記　第四版』	824	￥43	￥1	￥1	冬
314	18	題号不明	加倉井秋を	314	言語	食べ終へても蜜柑箱といふいつまでも	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	558	￥43	￥1	￥1	冬
315	18	題号不明	加倉井秋を	315	言語	同じビラ貼られし冬木は切なからむ	2006	『角川俳句大歳時記　冬』	570	￥43	￥1	￥1	冬